

高知大学海洋コア総合研究センター 設立 15 周年記念公開シンポジウム

「地球を掘ってわかること～古地震、気候変動、地球の姿～」

(地球掘削科学共同利用・共同研究拠点の成果と今後の展望)

- 日程：2018年11月30日（金）13時～18時、12月1日（土）9時30分～12時
＜開場・受付開始：11月30日12時15分～、12月1日9時～＞
- 会場：オーテピア（4階）ホール・集会室
- 主催：高知大学海洋コア総合研究センター
- 共催：高知みらい科学館、高知大学研究拠点プロジェクト 地球探求拠点：海洋と陸域に記録された環境・地震・レアメタルの過去・現在・未来、4次元統合黒潮資源学の創成プロジェクト
- 後援：海洋研究開発機構高知コア研究所、日本地球掘削科学コンソーシアム、東北大学学術資源研究公開センター、秋田大学国際資源学部、国立極地研究所、神戸大学海洋底探査センター、東京大学大気海洋研究所

■プログラム■

11月30日（金）

13:00～13:15

- | | |
|------|------------------------|
| 開会挨拶 | 櫻井 克年（高知大学 学長） |
| 来賓挨拶 | 高見沢 志郎（文部科学省 学術機関課長補佐） |
| 趣旨説明 | 池原 実（高知大学 教授） |

【特別講演】

13:15～13:45 平 朝彦（海洋研究開発機構 理事長）

深海掘削が拓く新しい地球生命科学

【セッション1：古地震・イベント堆積物】（座長：岩井 雅夫）

13:45～14:10 池原 研（産業技術総合研究所 首席研究員）

海底のイベント堆積物とこれを用いた地震・洪水履歴解読へのチャレンジ

14:10～14:35 後藤 和久（東北大学 准教授）

津波堆積物の地球化学同定法の開発と応用

（休憩）

【セッション2：古環境・古地磁気】（座長：山本 裕二）

14:50～15:15 多田 隆治（東京大学 教授）

日本海 IODP によるアジアモンスーン進化史

15:15～15:40 兵頭 政幸（神戸大学 教授）

地磁気と気候のリンク

【ポスターセッション】 (@集会室)

15:40~17:00

- P-01 小村 健太朗 (防災科学技術研究所)
国際陸上科学掘削計画 (ICDP)のこれまでと今後
- P-02 内山 しおり・町田 順一・保柳 康一 (信州大)
2011 年 3.11 津波堆積物との比較にもとづく南相馬市小高区で採取された完新統ボーリングコア中のイベント堆積物の識別
- P-03 宇佐見 和子 (東京大/産総研)・池原 研 (産総研)・金松 敏也 (JAMSTEC)・マクヒュー セシリア (コロンビア大/ニューヨーク市大)
海底のイベント堆積物を用いた地震履歴解読へのチャレンジ
ー日本海溝陸側斜面の例ー
- P-04 奥津 なつみ・芦 寿一郎・山口 飛鳥 (東京大)・菅沼 悠介 (極地研)・金松 敏也 (JAMSTEC)・池原 研 (産総研)・村山 雅史 (高知大)
南海トラフに分布する細粒タービダイトの基礎的情報と地震履歴復元への応用
- P-05 山崎 誠・嶋田 智恵子 (秋田大)・池原 実 (高知大)
北大西洋の亜極前線下に発達する珪藻軟泥と浮遊性有孔虫化石に基づく第四紀後期の亜極循環の復元
- P-06 向江 祐貴・椿野 将輝・山崎 誠 (秋田大)・池原 実 (高知大)・佐藤 時幸 (秋田大)
秋田県北部に分布する上部鮮新統~下部更新統の浮遊性有孔虫化石群集に基づく古海洋環境の変遷
- P-07 谷 理帆 (広島大)
Microstructural observations of quartz from the basement rocks of the Chicxulub impact structure and shock pressure estimation
- P-08 Moto Kawamata (総研大), Yusuke Suganuma, Koichiro Doi (極地研), Takanobu Sawagaki (法政大)
Reconstructing ice sheet fluctuation in Skarvesnes, southern part of Soya Coast, East Antarctica
- P-09 智原 睦美・福島 彩香 (岡山大)・池原 実 (高知大)・川幡 穂高 (東京大)・鈴木 淳 (産総研)・井上 麻夕里 (岡山大)
西太平洋熱帯域のサンゴを用いた 220 年の古環境復元
- P-10 窪田 薫・石川 剛志 (JAMSTEC)・鈴木淳 (産総研)・横山 祐典 (東京大)
生物源炭酸カルシウムのホウ素同位体分析

- P-11 木川 栄一・北田 和也・高橋 亜夕・町山 栄章・プロトコル作成者一同
(JAMSTEC)
海底熱水鉱床調査技術プロトコル
- P-12 浦本 豪一郎 (高知大)・諸野 祐樹・富岡 尚敬・若木 重行・中田 亮
(JAMSTEC)・和穎 朗太 (農研機構)・上杉 健太郎・竹内 晃久・星野 真人・
鈴木 芳生 (SPring-8)・光延 聖 (愛媛大)・白石 史人 (広島大)・菅 大暉
(東京大)・武市 泰男 (高エネ研)・高橋 嘉夫 (東京大)・稲垣 史生
(JAMSTEC)
遠洋性堆積物中に存在する鉄マンガン微粒子の鉱物学的・地球化学的特徴
- P-13 蛭田 明宏 (明治大)
日本海上越沖で確認されたガスハイドレートマウンド
- P-14 角和 善隆 (明治大)
流氷の海、日本海
- P-15 三島 弘幸 (鶴見大)
高知県登層産の魚類耳石化石に観察される成長線周期の検討
- P-16 長谷川 精 (高知大)
モンゴルの湖底堆積物コアから探る完新世と最終氷期、白亜紀の地球環境
- P-17 公文 富士夫 (高知大)
日本海、隠岐堆から採取された長尺のコア試料が示す第四紀後期の気候変動
- P-18 諸野 祐樹 (JAMSTEC)・浦本 豪一郎 (高知大)・上杉 健太郎・竹内 晃久・上
梶 真之 (SPring-8)・久保田 健吾 (東北大)・星野 辰彦・稲垣 史生
(JAMSTEC)
微小生命活動の現場を視るーX線マイクロ/ナノCTによる微生物細胞可視化の
試み
- P-19 中山 健・川畑 博・池原 実 (高知大)・宮脇 律郎 (科博)・藤永 公一郎 (千葉工
大/東京大)・加藤 泰浩 (東京大/千葉工大/JAMSTEC)
未固結堆積物ー玄武岩質マグマ相互作用ー北海道下川岩体に見られる
アジノール化ー
- P-20 池原 実ほか (高知大)
高知大学研究プロジェクトの紹介
- P-21 近藤 康生・山岡 勇太 (高知大)
鮮新世から更新世にかけての寒冷化と北西太平洋黒潮沿岸域での進化：
トドロキガイからタマキガイへの種分化の例
- P-22 橋本 善孝・西尾 嘉朗・藤内 智士・川畑 博 (高知大)
沈み込みプレート境界地震発生機構研究グループ紹介

- P-23 橋口 誠 (高知大)
Paleo-Stress In An Exhumed Cretaceous Accretionary Complex, Shimanto Belt, In Konan City And Geisei Village, Kochi Prefecture, SW Japan
- P-24 山本 佳奈・住友 洋介・仲西 海人・西岡 孝・宮本 悟・門恒 男 (高知大)
倒立型 1K GM 冷凍機の開発
- P-25 西脇 芳典 (高知大)
微細固体サンプルの非破壊微量元素分析とその化学状態分析法の開発
- P-26 池原 実 (高知大)
科研費・新学術領域研究「熱-水-物質の巨大リザーバ：全球環境変動を駆動する南大洋・南極氷床」の概要と古海洋学の活動
- P-27 松井 浩紀・池原 実 (高知大)
有孔虫群集から復元する最終間氷期以降の南極前線の挙動
- P-28 池原 実・朝日博史ほか (高知大)
古海洋コアビッグデータによる未来地球の描像 (地球掘削科学共同利用・共同研究拠点プロジェクト) の概要と戦略
- P-29 奥村 知世・公文 富士夫・徳山 英一 (高知大)
高知県沖宝石サンゴに関する地球科学的研究
- P-30 新井和乃 (高知大)・小林幸雄 (JAMSTEC)・池原実 (高知大)・伊藤元雄 (JAMSTEC)・徳山英一 (高知大)・共用システムスタッフ一同
～もう一つの機器利用制度～ 高知コアセンター分析装置群共用システム

【フリーディスカッション】

17:00～18:00 地球掘削科学共同利用・共同研究拠点と IODP/ICDP のさらなる発展に向けて (進行：徳山 英一 センター長)

話題提供：

巽 好幸 (神戸大学 教授) 海洋底探査 (火山・鉱床・活構造) と海洋コア研究の今後の連携

江口 暢久 (海洋研究開発機構 部長)

野牧 秀隆 (海洋研究開発機構 主任研究員)

ほか

19:00～21:00 懇親会 (三翠園)

12月1日(土)

【セッション3：高知から生まれるサイエンス】 (座長：氏家 由利香)

09:30～09:55 池原 実 (高知大学 教授)

南大洋の深海底探査と新たな掘削計画の始動

09:55～10:20 井龍 康文 (東北大学 教授)

タヒチ, グレートバリアリーフ, 琉球

サンゴ礁掘削が描き出す新たな地球環境史

10:20～10:45 清川 昌一 (九州大学 准教授)

太古代・原生代の海底環境復元 (DXCL, GHB 掘削)

(休憩)

11:00～11:25 谷川 亘 (海洋研究開発機構 主任研究員)

水中地震考古学のススメ：歴史自然災害を紐解く新たなアプローチ

11:25～11:50 木村 学 (東京海洋大学 特任教授)

Nantro SEIZE プロジェクトと延岡衝上断層帯掘削の総括

11:50～12:00 閉会挨拶 (徳山 英一 高知大学海洋コア総合研究センター長)

(昼食)

13:30～15:00 (予定)

【ビジネスミーティング】 (一般には非公開とします)

- ・ 共同利用・共同研究拠点の中間評価について
- ・ 連携機関ネットワークを生かした共同研究等について
- ・ 若手研究者育成への取り組みについて
- ・ 国際化に向けた取り組みについて ほか

■参加者の皆様へ

【会場・アクセス】

- ・オーテピア (<https://otepia.kochi.jp/>) :

オーテピアは、高知図書館、高知声と点字の図書館、高知みらい科学館の3つの施設からなる複合施設です。このシンポジウムでは、オーテピア4階にあるホールと集会室を利用します。

- ・オーテピアへのアクセス (<https://otepia.kochi.jp/access.html>) :

詳細は上記のウェブサイトにてご確認ください。

- ・空港連絡バス

高知龍馬空港から高知市街への移動は空港連絡バスが利用できます。空港連絡バスは下記2社が運行しています。時刻表、運行ルートなどはそれぞれのウェブサイトにてご確認ください。(約20分、720円；Suica等の交通系ICカードは使えません)

「とさでん交通」 <https://www.tosaden.co.jp/bus/airport.php>

「高知駅前観光」 <http://kochiekimaekanko.jp/airportbus/>

- ・駐車場

車で移動する方は、オーテピア1階の駐車場か近隣の駐車場を利用して下さい。



Google マップ

【講演】

- ・プロジェクターの接続端子は、D-Sub15 ピンか HDMI の 2 種類です。
- ・パソコン等のプロジェクターへの接続や操作は、発表者ご自身でお願いします。
- ・発表時間は質疑応答の時間を含めて 25 分（特別講演は 30 分）です。5 分前を目安として終了し、質疑応答の時間を確保するようご協力下さい。

【ポスター発表】

- ・ポスターのサイズは A0（横 841mm、縦 1189mm）が基準です。一発表につき、指定されたボード 1 面のみをご利用下さい。ポスターの設置場所は、集会室（オーテピア 4 階）です。
- ・ポスターは 11 月 30 日（金）の 12 時 15 分（受付開始時間）から貼ることが出来ます。また、ポスターセッション終了時（11 月 30 日 17 時）にポスターを撤収して下さい。
- ・ポスター掲示用のマグネットは会場で用意します。

【会費等】

- ・シンポジウム参加費は無料です。
- ・懇親会費は 6000 円を予定しています。追加参加、キャンセルなどは 11 月 28 日（水）までにお知らせ下さい。

【その他】

- ・会場内へはペットボトル等（蓋があるボトル）の飲料の持ち込みは可能です。食べ物の持ち込みはご遠慮下さい。
- ・4 階（同フロア）に休憩コーナー（食事可、飲料自動販売機あり）があります。
- ・喫煙：オーテピアは全館禁煙です。喫煙スペースは建物外の北側の駐輪場横にあります。
- ・高知みらい科学館がオーテピア 5 階にあります。自由に見学ができます。プラネタリウムのみ有料。

【LOC】

徳山英一、岩井雅夫、池原実、山本裕二、氏家由利香

【連絡先】

高知大学海洋コア総合研究センター 共同利用・共同研究拠点事務局

〒783-8502 高知県南国市物部乙 200

TEL: 088-864-6712 FAX: 088-864-6713

E-MAIL: core-kyodo@kochi-u.ac.jp